



## うた 〈詩先生のひとくちコラム〉



### 子どもと新型コロナウイルス変異株のはなし

学校医 小浦 詩

4月以降国内でも新型コロナウイルス変異株の感染が広がっています。

子どもは、新型コロナウイルスにかかっても症状が出なかったり、出たとしても軽く済むことが多いことが知られていますが、変異株に関してはどうでしょうか？

イギリスでは日本よりも一足早く昨年12月以降に変異株が急速に広がりました。当初、変異株の子どもへの感染力を危惧する報道がありましたが、その後の調査では、変異株による感染は、特に子どもに多いということはなく、成人と子どもの感染者の割合は変異株の出現した前後で大きく変わらないことが明らかになりました<sup>1)</sup>。下のグラフはイギリスの変異株流行前と後の年齢分布です<sup>1)</sup>。小児例の分布には特に差がないことがわかりますね。



ただ、変異株がいずれの年代にも感染力が強まっているのは確かなようです。イギリスの報告では、変異株ウイルスの感染力は、従来のウイルスの1.7倍と示されており<sup>2)</sup>、現時点での日本のデータでは重症化のリスクが1.4倍、特に40-64歳のリスク比が高いことが明らかになっています<sup>3)</sup>。

#### 変異株はどの年代にも感染力が高まっている

(子どもにだけより感染しやすいわけではない)

#### 重症化リスクも高い可能性がある

大事なのは基本の感染対策

①手洗い・消毒 ②ユニバーサマスク ③3密の回避 です。

(※ユニバーサマスク：症状の有無にかかわらず屋内や人との距離が保てない環境では全ての人がマスクを着用すること)

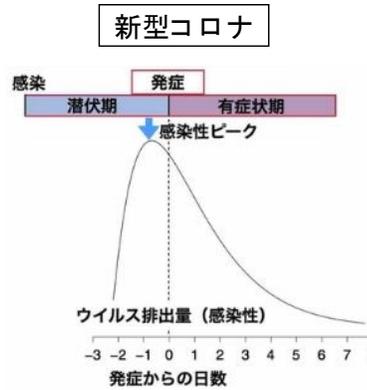
耳にタコができると感じるほどに各所で叫ばれているウイルス感染対策ですが、実はコロナ前の中では、”手洗い・風邪症状がある人はマスクを！”が一般的でした。

私も2年前までは、自身の風邪症状がない場合には、診察をする小さな子どもたちが怖がることもあり、マスクをせずに小児診療を行っていました。(それでもこの10年インフルエンザにはかかっていません！)

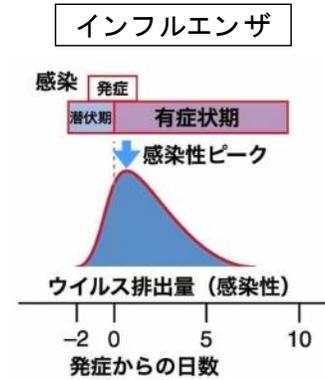
ではコロナ時代の今、なぜこの3つの感染対策なのか。インフルエンザと比較した表・グラフをみてください<sup>4)</sup>。

## 無症状・感染期間 インフルとの比較

	新型コロナ	インフルエンザ
無症状感染	数%～60% (ダイヤモンド号：50%) 無症状患者でもウイルス量が多く <b>感染力が強い</b>	10% 無症状患者ではウイルス量は少ない
潜伏期間	1-14日間 (平均5日間)	1-4日間 (平均2日間)
感染力のピーク	<b>発症0.7日前</b>	発症2-3日後



自分の感染に  
気がつかない人が  
まわりにうつしてしまう



発症した人の  
感染対策でまわりに  
広がりにくくなる

コロナウイルスのすごいところは、インフルエンザよりも重症化・致死率が高く流行を阻止しなければならぬウイルスだが、皆が皆ひどい症状をおこすのではなく、”**無症状が多い・潜伏期間が長い・発症前から感染力があること**”です。そのため広がりやすい。強すぎず弱すぎず、実に抑え込みにくい、お前いいところついたな！という手強い相手なんです。これらの特徴があるので

- ① 手洗い・消毒 (手洗いでできない時は消毒をしよう)
- ② ユニバーサルマスク (症状がなくてもうつすリスクがあるのでマスクをしよう)
- ③ 3密の回避 (症状ありなしに関わらず感染機会を減らそう) が大事なんです！！

もちろん、これから暑くなってきたら、熱中症にも注意が必要です。なので、マスクをはずしてもよい場所・シチュエーションを理解することも大切ですし、様々な理由でマスクをすることが難しいケースもあります。その際には、換気やソーシャルディスタンスなど工夫し皆で検討していくことも大切です。

学校生活に感染ゼロリスクを求めることは現実的ではありません。幸い、現在流行中の変異株も含めてコロナウイルスは子どもたちに感染しても多くが無症状や軽症で身体の心配はほぼありません。地域の流行状況や最新の医学的知見をもとに、皆でできる限りの方法を模索し、みなさんのかけがえない”今”を大切にしていきたいと思います。

学校職員、保護者の方々など私たち大人が感染対策をして感染を拡大させないことも”子どもたちのできる限りの日常を守る大事な行動”ですね。

長文失礼いたしました。次回はワクチンのお話を予定しています。リクエストも募集中です！

### 参考文献

- 1) Greater London Authority (GLA) Coronavirus (COVID-19) Cases and Vaccinations
- 2) European Centre for Disease Prevention and Control. Rapid increase of a SARS-CoV-2 variant with multiple spike protein mutations observed in the United Kingdom. December 20, 2020.
- 3) <https://www.niid.go.jp/niid/ja/diseases/ka/corona-virus/2019-ncov/2551-lab-2/10354-covid19-45.html>
- 4) He, Xi, et al. "Temporal dynamics in viral shedding and transmissibility of COVID-19." *Nature medicine* 26.5 (2020): 672-675.